

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見する力（課題を見つける） 対話する力（コミュニケーション） 認める態度（人としての思いやり）
・義務教育修了時のめざす子どもの姿が明確で、時代の流れに対応しているのがよく分かる。 ・コロナ禍で生活リズムが乱れた児童、生徒もいる中で、改善に向けた取組みが進んでいるように見える。 ・全体的に教職員の勤務時間が減少傾向にあるので取組みを更に進めてほしい。	・多くの児童生徒が「自ら考え、決める、選ぶ」を実践している。 ・学び合いを通して、自分の考えを深めることができる、児童生徒が増えてきている。 ・小学校での不登校児童は減少傾向だが、中学校では変化がない。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・ 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 ・ 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒
		中学校区として統一した取組等	○「学校・子どもはこうあるべきだ」といった価値観や固定観念を問い直す ・ 多様な価値観で子ども一人一人の学ぶ姿をみる。 ○自分が“考えて、決める、選ぶ” ・ 自分で方法を決めて課題解決に取り組んだり、議論したりする。

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題を見つける力（自己決定） 認め合う態度（思いやり）	対話をする力（コミュニケーション）
・ 自ら学び考動する子どもを育てる。 ・ 子どもとともに学びを創り上げる。		めざす 子ども像	課	自分のこととしてとらえ、自分の課題を見つけ、選択するとともに、それに向かって粘り強く取り組むことができる。
学校教育目標 自ら学ぶ子 ＜よく考える子・思いやりのある子・たくましい子＞			文	自分の考えをもち、表現し合う中で、思考をつなげ、広げて深め、よりよい解を創り出すことができる。
現 状			認	自他の良さを認め合い、目標に向かって協力して活動できる。
授業を中心に、自分で考え、表現する主体的な学びにむかい、学びのおもしろさを感じている児童が増えてきた。また、教育活動全体で、自分で選択したり、考えて決定したりし、試考錯誤しながら、活動に取り組むことができるようになってきている。しかし、個人差があり、教師の指示を待ったり、自分の考えをもつことが難しく周りからの支援を求めたりする児童もいる。 授業を含めた全教育活動において、自分のこととしてとらえ、自分の考えをもち、表現し合う中で、思考を広げ深めていくことで学びを創っていくとともに、粘り強く課題を解決していくことで、考動力へとつなげていくことが求められる。		研究	テーマ	「ともに創り上げる授業」
			内容等	教科、学年の枠を超えた授業
		めざす授業の姿	1 「主体的に学び、学びがおもしろいと実感できる授業」 ○学び合いのある授業 ○様々な手段で表現できる授業 ○教材研究をもとに考えたいことを明確にした授業	
			2 「児童とともに創り上げる 教科、学年の枠を超えた授業」 ○自分のこととして学びをとらえる授業 ○「認知のしくみ」から見えることを大切にした授業	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立南小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 評 価	達 成 評 価	総合 評価	改善方策
3	主体的に学ぶ 力を高める。	★	見 直 し	○「学びがおもしろい」と感じる授業をともに創り上げる。	① 児童とともに考え、児童自身が気づき、選び、決めながら、学び合いを行う。 ② 子ども主語・教材主語を意識した教材研究を行う。	① 児童アンケート「学びがおもしろい」を90%以上にする。 ② 実践や教材研究について、月に1回以上交流し、CMの見直しを行う。	① 児童アンケート「学びがおもしろい」 → 94.3% □① 授業を創る中で、児童の思いも取り入れながらの授業作りを行っている。 ②カリキュラムマップの見直し → 1回 □② 月に1回、授業研の前に教材研究を行い、教材に対する考えを広めたり、授業のつくり方について交流したりした。	3	3	① 自分で決めることが苦手な児童のために、選択肢を準備し、自分で選び、決めることができるようにする。 ② 学年会を月に1回設定し、「結果分析取組シート」をもとに教材研究を行う。	◎① 児童アンケート「学びがおもしろい」 → 95.6% □① 選択肢を準備することで、児童自身が選び、決めたことや思い・考えも取り入れた授業を創っていた。 ◎② 次年度に向けて、カリキュラムマップの見直し → 1回 □② 月に1回、授業研の前に教材研究を行い、さらに学年会を設定し、より教材に対する考えを広めたり、授業のつくり方について交流したりした。	4	4	4	① 継続して児童が自分で選び、決めることができるようにし、自分たちが決めたことに対して、振り返り・改善を行っていく。 ② 長期休暇や研修時に学年で教材研究する時間を確保し、教材に対する理解（学習指導要領・教科の本質）を深めていく。
2	思いやりの心を持ち、楽しいと思える学校を創る。	★	見 直 し	○相手意識を持ち、主体的に考動ができる。	① 各学級で学活や道徳などの教科と「キャリアログ」の取組を関連させながら行い、自分の良い所を見つけ、視覚的に書き表し、自己肯定感を高める。 ② 全教育活動において、「なぜ？」を問い直し、必然性について考えられる場面を創り、適宜振り返りを行う。	① 児童アンケートを行い、自己肯定感・自己有能感について、肯定的な回答をした児童を80%以上にする。 ② 全教育活動を通して、「なぜ？」の問い直しや必然性について考える場面創りと振り返りの実施を80%以上にする。	① 児童アンケート「自分にはいいところがある」 → 81.1% □① 「キャリアログ」を活用して、自分の良い所を見つけることができる児童が増え始めている。 ② 各教科 88.9% 学校行事 77.8% クラブ・委員会など 55.6% 全教育活動 74.1% □② 委員会やクラブでは回数を減らして実施している中で、1授業時間内で十分な問い直しや振り返りの時間が確保できなかった。	3	2	① ・「キャリアログ」の取組を引き続き行う。 ・1月に「ハートフル週間」の取組を実施し、友達の良い所を見つける活動にも取り組む。 ② ・今後、学校内で各委員会での活動も増えるため、活動後に児童とふり返りの場を設定するように取り組む。 ・来年度に生かせるように、今年度の取組を記録に残しておく。	◎① 児童アンケート「自分にはいいところがある」 → 75.5% ハートフル週間後 → 80.3% □① ハートフル週間後には、他者評価をもとに自分のいいところを見つけることができた児童が増えた。 ◎② 各教科 93.7% 学校行事 61.5% クラブ・委員会など 61.5% 全教育活動 72.3% □② 「クラブ・委員会など」の項目は、児童への指導や教職員への声かけをすることで、意識的に取り組むことができた。	3	3	3	① 「キャリアログ」の中で、毎学期末に「自分のいいところ」を見つける活動を取り入れる。 ① 児童会と連携し、友達のいいところ見つけができる活動を実施する。 ① Google チャットを活用し、日常的な児童の頑張りをリアルタイムで教員が評価して交流できるようにすることで、児童への肯定的な声かけを増やしていく。 ② 年間計画や前年度の活動内容をもとに計画的に活動し、振り返りや見直しを行っていく。

4	基本的生活習慣を身に付け、体力づくりに励む。	見直し	○自己の課題をもとに、児童自らが取組課題を考え、選び、実践する。	① 昨年度の新体力テストの結果をもとに、児童自らが目標値を決定し、目標に向けた体力づくりの取組状況や新体力テストの結果について振り返りを行い、改善を図る。	① ふり返しカード等において、児童自らが決めた目標を達成できる児童を 80%以上にする。	① 自らが決めた目標を達成できた児童 →74.2% □① 児童自らが目標を決められるための手立てとして、児童自身が個々の能力を客観視させることが不十分であった。	3	2	① ・今年度の新体力テストの結果を全児童に知らせ、個々の課題を把握させる。その課題をもとに、自分で選んで課題を解決できる取組を行う。 ・ふり返りの場面を確保し、個々の変容を実感させる。	◎① 自らが決めた目標を達成できた児童 →76% ◎① 自分で決めた種目の再測定で記録がUPした児童 →70% □① 目標数値に届かなかったが、自己の課題を客観的に見つめ、自分で課題解決法を選びながら実践する児童が増加した。	3	3	3	① 体育科の学習を中心として、自分の課題を見つけ、選び、実践することを通じた改善プロセスに継続して取り組めるようにする。 ① 新体力テスト再測定の得点UPを目標にするのではなく、再測定結果を課題発見の手段や成果の目安とし、その課題を克服するための過程に重点を置く。
2	教育公務員としての自覚を持ち、笑顔と元気で子ども達と向き合える教職員になる。	見直し	○地域、保護者が「安心できる」と言える学校を創る。	① 児童の学びの足跡を保護者に見てもらったり、児童の学びの姿を様々な形で発信したりする。	① 保護者アンケート「学校に安心して児童を通わすことができる」を 85%以上にする。	① 保護者アンケート「学校に安心して児童を通わすことができる」 → 92% ▲① 保護者アンケート「様々な場面を通して、子ども達の学びの姿が伝わってくる」 → 76% ② 時間外勤務 45h 以上 → 0人 不祥事・病休 → 0人	3	3	① 子ども達の学びの姿を学年・学級通信等で継続して知らせるとともに、ホームページやクラスルームに掲載することで、学校での様子を伝える機会と場を増やしていく。	□① 保護者アンケート「様々な場面を通して、子ども達の学びの姿が伝わってくる」 → 83.3% ◎② 時間外勤務 45h 以上 → 0人 不祥事・病休 → 0人 ◎①② 保護者アンケート「学校に安心して児童を通わすことができる」 → 89.3%	4	4	4	① ホームページの更新をこまめに行うだけでなく、文量等にとらわれず、子どもの学び姿が見える通信を各学級で発信していく。 ① 日々の学びの様子がいつでもどこでも見れるように、児童のアカウントを保護者の端末等に紐づけてもらうように周知していく。 ② 毎日の入退校時刻の入力を継続する。校務データの整理を行う際に、次年度に活用しやすくデータを保存することで業務の円滑化を図る。 ② 業務改善の研修を定期的に行い、業務の見直しや改善を図っていく。

[プロセス評価の評価基準]	
評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]	
評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	
5	1 0 0 %以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	8 0 %以上1 0 0 %未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	6 0 %以上8 0 %未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	4 0 %以上6 0 %未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	4 0 %未満の達成度	目標を達成できなかった。